
準備する

e-Tax ソフトを利用するには、事前に利用者識別番号等を入手し、パソコンに e-Tax ソフトをインストールする必要があります。
この章では、e-Tax ソフトを起動するまでの準備について説明します。

用意するもの	16
動作環境を確認する	20
インストールする	21
電子証明書（ルート証明書）のインストール	21
e-Tax ソフトのインストール	24
税目を追加インストールする	24
e-Tax ソフトのアンインストール	25
ルート証明書をアンインストールする	27
税目を指定してアンインストールする	30

2-1

用意するもの

ここでは電子申告等を行う前に用意するものと、その入手方法について説明します。

電子申告等を行う前に、以下のものを用意してください。

- **利用者識別番号と暗証番号**

納税地を所轄する税務署で利用開始のための手続を行うと、税務署から利用者本人に利用者識別番号と暗証番号が通知されます。利用者識別番号は、利用者本人を識別するための 16 桁の番号です。

暗証番号は、受付システムにログインする際、必要となります。



注 意

マイナンバーカードをお持ちの方で、マイナンバーカード方式（マイナンバーカードを利用してログイン等の認証を行う方式）をご利用の場合、利用者識別番号と暗証番号は不要で、e-Tax にログインが可能となります。

その場合、あらかじめ受付システムより、マイナンバーカード方式の利用開始を行ってください。

なお、マイナンバーカードの読み取りには、IC カードリーダー等機器及び JPKI 利用者ソフトをご用意ください。詳しい操作方法については、以下の URL をご参照ください。

公的個人認証サービスポータルサイト

<https://www.jpki.go.jp/>

- **e-Tax ソフト**

e-Tax ソフトは、以下の e-Tax ホームページから取得することが可能です。

<https://www.e-tax.nta.go.jp/download/e-taxSoftDownload.htm>

- **電子証明書**

e-Tax ソフトでは申告・申請等データが利用者本人の作成したものであること及びデータの改ざんの有無を確認するため、申告・申請等データに電子署名を付与し、電子証明書を添付する必要があります。

政府認証基盤（GPKI）と相互認証している公的認証局又は民間認証局より、電子証明書を入手してください。

具体的には、以下のような認証局が発行する電子証明書です。

- (1) 法務省が運営する商業登記認証局
- (2) 公的個人認証基盤として地方公共団体が運営する認証局
- (3) (1) 及び (2) のほか、これらと同様の機能を有することとして、国税庁長官が定める電子証明書



注意

e-Tax ソフト及びルート証明書を e-Tax ホームページから入手された方は、以下の URL に記載された手順に従い、インストールを行ってください。

<https://www.e-tax.nta.go.jp/download/e-taxSoftDownLoad.htm>

政府共用認証局（官職認証局（SHA-2））、セコムパスポート for WebSR3.0 のルート証明書またはセコムパスポート for WebSR3.0 の中間証明書は、e-Tax ホームページから入手可能です。以下の URL に記載された手順に従い、インストールを行ってください。

<https://www.e-tax.nta.go.jp/download/index.htm>



ヒント

政府認証基盤（GPKI）は、インターネットを利用して国民等から行政機関に対して申請・届出等が行われた場合に、本当にその名義人によって作成されたものか、内容が改ざんされていないかを確認できるようにするための行政機関側のしくみです。

なお、認証機関によっては、発行する電子証明書が IC カードに格納されている場合があります。この場合、別途 IC カードリーダー等が必要になります。

電子証明書が IC カードに格納されている場合は、IC カードリーダー等の機器及びその機器を使用するためのソフトウェアをご用意ください。

詳しくは、ご利用の電子証明書の発行元に確認してください。

● インターネットを利用できる環境

e-Tax ソフトでは、インターネットを利用して受付システムにログインし、申告・申請等データの送信や受付結果の確認を行います。

インターネットを利用できる環境をご自身でご用意ください。

詳しくは、以下を参照してください。

➡📖 「2-2 動作環境を確認する」

さらに、電子納税や電子納税証明書の交付請求を行う際の交付手数料の納付に、インターネットバンキング等を利用する場合は、別途、金融機関との間でインターネットバンキング等の利用契約が必要となります。

ダイレクト納付を利用するためには、ダイレクト納付利用届出書を所轄の税務署に提出する必要があります。なお、ダイレクト納付利用届出書は書面で提出していただく必要があります。



税理士等が送信する場合は

電子申告は、納税者本人に代わって税理士等が送信を行うことができます。
税理士等が送信を行う場合は、以下のものが必要となります。

- ・ 税理士等の利用者識別番号、電子証明書
- ・ 納税者本人の利用者識別番号、電子証明書

納税者本人の利用者識別番号は e-Tax ソフトを使用して取得できます。

➡ 19 ページ「税理士等が納税者本人の利用者識別番号を取得するには」

また、次の条件をすべて満たすと、納税者本人の電子証明書は不要です。

- ・ 基本情報の税理士等の利用者識別番号欄等に税理士情報を入力する。
- ・ 税理士等が申告・申請等データに電子署名を付与する。
- ・ 税理士等が申告・申請等データを送信する。

ただし、納税証明書の交付手続を行う場合には納税者本人の電子証明書、納税証明書の交付手続の代理請求を行う場合には代理人の電子証明書は必要です。



通算親法人が通算子法人の申告・申請等を送信する場合は

グループ通算制度の適用を受ける通算親法人（委任を受けた者を含む。）は、通算子法人に代わって電子申告の送信を行うことができます。

通算親法人（委任を受けた者を含む。）が送信を行う場合は、以下のものが必要となります。

- ・ 通算親法人（委任を受けた者を含む。）の利用者識別番号、電子証明書
- ・ 通算子法人の利用者識別番号、電子証明書

また、次の条件をすべて満たすと、通算子法人の電子証明書は不要です。

- ・ 基本情報の通算親法人による提供の利用者識別番号欄に通算親法人の利用者識別番号を入力する。
- ・ 通算親法人（委任を受けた者を含む。）が申告・申請等データに電子署名を付与する。
- ・ 通算親法人（委任を受けた者を含む。）が申告・申請等データを送信する。

ただし、納税証明書の交付手続を行う場合には通算子法人の電子証明書は必要です。



税理士等が納税者本人の利用者識別番号を取得するには

e-Tax ソフトを利用して税理士等が納税者本人の利用者識別番号を代理で取得することができます。以下の手順にしたがって納税者本人の利用者識別番号を取得してください。

- 1.以下の手続の種類と税目で、該当する帳票を追加して申告・申請等を作成します。

手続の種類	申請・届出書
税目	開始届出

詳細は、以下を参照してください。

➡📖 「6 申告・申請等を作成する」

- 2.帳票を編集します。

帳票の作成の詳細は、以下を参照してください。

➡📖 「7 帳票を作成する」

- 3.電子署名を付与します。

電子署名付与の詳細は、以下を参照してください。

➡📖 「9 申告・申請等に電子署名を付与する」

- 4.納税者本人の提出先へ送信します。

送信の詳細は、以下を参照してください。

➡📖 「10 申告・申請等を送信する」

- 5.メッセージボックスにアクセスし、メッセージ一覧から受付結果を選択し、詳細を表示します。

受付結果の確認詳細は、以下を参照してください。

➡📖 「11-1 メッセージの詳細を確認する」

- 6.「メッセージ詳細」画面で **通知書表示** をクリックします。

通知書の内容が表示されます。

- 7.画面に記載されている利用者識別番号・暗証番号を取得します。



注意

開始届出書の作成時に「通知書上に表示しない」のチェックを入れている場合、通知書に暗証番号は表示されません。

2-2

動作環境を確認する

電子申告・納税等を行うための動作環境を確認しましょう。

e-Tax ソフトは、利用者が使用するパソコンと **e-Tax** (受付システム) が、インターネットで申告・申請等データをやり取りすることを前提としています。

したがって、**e-Tax** ソフトの利用にあたっては、インターネット・サービス・プロバイダとの契約などを含め、インターネットが利用できる環境が必要となります。

また、**e-Tax** の利用に当たり、**e-Tax** ソフトについては、ハードウェア、オペレーティングシステム(OS)及びブラウザに関して、次のような環境を推奨しています。推奨環境とは、国税庁において動作を確認した環境です。

ハードウェア	CPU : Pentium4 (1.6GHz) 以上 (又はその相当品) メモリ : 512MB 以上 ハードディスクドライブ (HDD) : 2GB 以上の空きエリア 画像解像度 : 1024×768 以上	
OS	ブラウザ	PDF 閲覧
Microsoft Windows 10	Microsoft Edge Google Chrome	Adobe Acrobat Reader DC
Microsoft Windows 11	Microsoft Edge Google Chrome	

※ サポートが終了している OS 等を含め、上記以外は推奨環境外となりますので、使用できないおそれがあります。

※ ブラウザは 32bit 版をご利用ください。

※ OS については、いずれも日本語版であることが必要です。

※ インストール・アンインストール・バージョンアップを行う際には、管理者権限が必要となります。

※ ブラウザ起動を伴う一部の動作にて、**Microsoft Edge** を使用しているものがあります。そのため、**Microsoft Edge** が搭載された端末を使用してください。

※ **Microsoft Windows 10** は 2025 年 10 月 14 日より推奨環境対象外となります。

2-3

インストールする

e-Tax ソフトをインストールしましょう。

e-Tax ソフト及びルート証明書のインストールについては、以下の URL に記載された手順に従い、実施してください。

<https://www.e-tax.nta.go.jp/download/e-taxSoftDownload.htm>

<https://www.e-tax.nta.go.jp/download/index.htm>



電子証明書（ルート証明書）のインストール

e-Tax ソフトをインストールする前に、パソコンに以下の認証局が発行した電子証明書（ルート証明書）を組み込みます。

- 政府共用認証局（官職認証局）
- セコムパスポート for WebSR3.0

国税庁が上記二つの認証局を e-Tax が信頼する認証局と定めることに同意した上で、電子証明書（ルート証明書）の組み込みを行ってください。

ルート証明書の詳細については、以下を参照してください。

➡📖 「1-4 e-Tax のセキュリティについて」

では、以下 URL に記載された手順に従い、ルート証明書をインストールしましょう。

<https://www.e-tax.nta.go.jp/manual/index.htm>

ここではパソコンを使用するすべてのユーザ（複数の異なるユーザ）に対して、電子証明書（ルート証明書）のインストールが行われます。



注意

異常があった場合には、「証明書のストアに失敗しました。手作業で行ってください。」というメッセージが表示されます。

以下を参照し、インストールを行ってください。

ルート証明書のインストール（別手順）に関するマニュアル

https://www.e-tax.nta.go.jp/manual/anotherManual_root.pdf



ヒント

ルート証明書が正常にインストールされたことを確認することができます。

以下を参照してください。

➡ 22 ページ「ルート証明書のインストールが正常に終了したことを確認するには」

ルート証明書の検証については、以下を参照してください。

➡ 「付録 3-1 ルート証明書の検証」



次の操作

e-Tax ソフトをインストールしましょう。

➡ 24 ページ「e-Tax ソフトのインストール」



こんなときには

ルート証明書のインストールが正常に終了したことを確認するには

コントロールパネルから確認します。

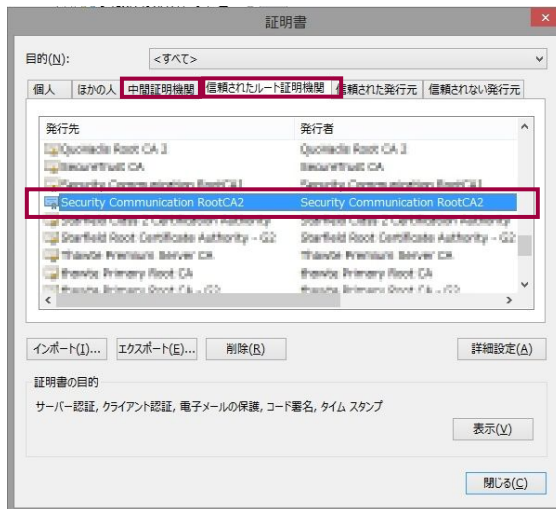
1. Windows の [スタート] メニュー画面を選択し、「コントロール パネル」と入力し、Enter キーを押してください。
2. 表示方法を「小さいアイコン▼」に設定後、[インターネットオプション] を選択します。
→「インターネットオプション」画面が表示されます。
3. 「コンテンツ」タブを選択し、**証明書** をクリックします。
→「証明書」画面が表示されます。

（次ページへ続く）



(前ページからの続き)

4. 「信頼されたルート証明機関」タブ及び「中間証明機関」タブを選択します。



(図は「信頼されたルート証明機関」タブを選択した場合です。)

5. それぞれのタブにおいて以下の発行先の証明書があることを確認します。

「信頼されたルート証明機関」タブ

- OfficialStatusCA (政府共用認証局 (官職認証局 (SHA-2)) のルート証明書)
- Security Communication RootCA2、Security Communication RootCA3 (セコムパスポート for WebSR3.0 のルート証明書)

「中間証明機関」タブ


- SECOM Passport for Web SR 3.0 CA (セコムパスポート for WebSR3.0 の中間証明書)



注意

政府共用認証局 (官職認証局 (SHA-2))、セコムパスポート for WebSR3.0 のルート証明書またはセコムパスポート for WebSR3.0 の中間証明書は、e-Tax ホームページから入手可能です。以下の URL に記載された手順に従い、インストールを行ってください。

<https://www.e-tax.nta.go.jp/download/index.htm>



e-Tax ソフトのインストール

ルート証明書のインストールが正常に終了したら、**e-Tax** ソフトをインストールします。


以下の手順に従ってインストールしましょう。

<https://www.e-tax.nta.go.jp/download/e-taxSoftDownLoad.htm>

税目を追加インストールする

e-Tax ソフトをインストールした後にダウンロードサイトから税目を追加します。以下の手順に従って税目の追加を行ってください。

また、**e-Tax** ソフトをインストールしてから時間が経っている場合には、バージョンアップされていることがあります。この場合も必要に応じて、ダウンロードサイトから追加インストールを行ってください。

➡  「付録 2-4 追加インストールを行う」

e-Tax ソフトのアンインストール

インストールした e-Tax ソフトが不要になった場合に、e-Tax ソフトを削除します。



特定の税目だけをアンインストールすることもできます。

詳しくは、以下を参照してください。

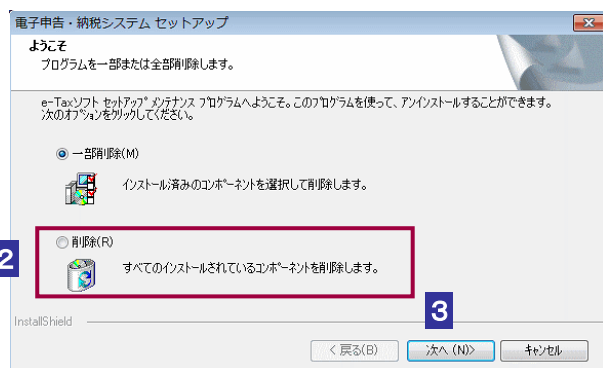
ヒント

➡ 30 ページ「税目を指定してアンインストールする」

- 1 <Windows 10、Windows 11 の場合>Windows の [スタート] メニューから [すべてのアプリ] - [e-Tax ソフト] - [e-Tax ソフトアンインストール] を選択します。

インストーラが起動します。

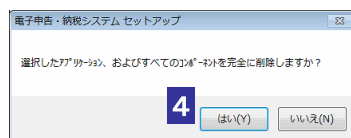
- 2 「削除」をチェックします。



- 3 次へ > をクリックします。

メッセージが表示されます。

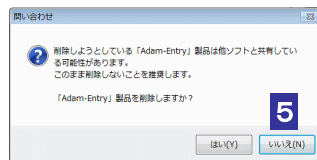
- 4 はい をクリックします。



アンインストールが開始されます。

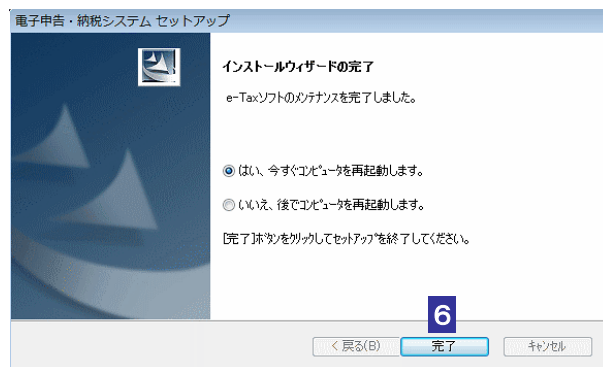
アンインストール中に以下のメッセージが表示されますので、「Adam-Entry」製品を削除するかどうか選択してください。

なお、「Adam-Entry」製品は他ソフトと共有している可能性がありますので、削除しないことを推奨します。




5 **いいえ** をクリックします。

アンインストールが完了すると、以下の画面が表示されます。



6 **完了** をクリックします。

これで e-Tax ソフトのアンインストールは完了です。

注意  e-Tax ソフトをアンインストールしても、作成された利用者ファイルは削除されません。利用者ファイルを削除したい場合は、直接、ファイルを削除してください。
e-Tax ソフトをアンインストールしても、ルート証明書は削除されません。
以下を参照し、必要に応じて削除を行ってください。

➡  27 ページ「ルート証明書をアンインストールする」

e-Tax ソフトのアンインストール後、「Adam-Entry」製品を削除したい場合は、e-Tax ソフトを再度インストールし、アンインストールを行います。その際、「Adam-Entry」製品を削除しますか？」で **はい** をクリックしてください。

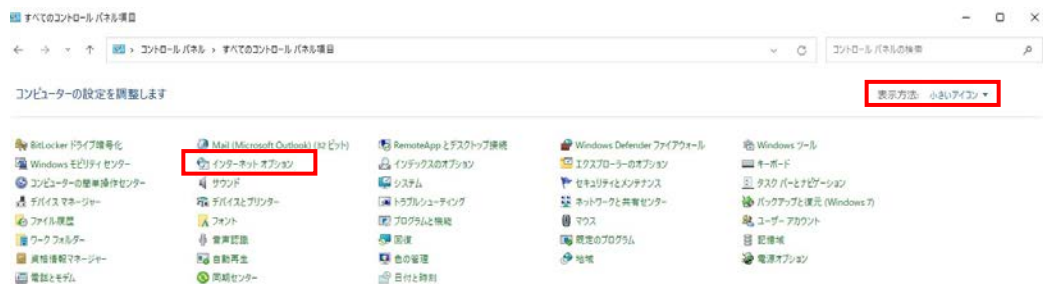
ルート証明書をアンインストールする

e-Tax ソフトをアンインストール後、以下の手順にしたがってルート証明書を削除します。

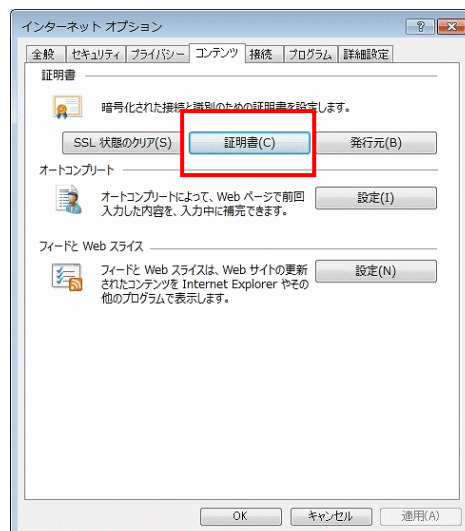
ルート証明書の削除はコントロールパネルから行います。

1 Windows の [スタート] メニュー画面を選択し、“コントロール パネル” と入力し、**Enter** キーを押してください。

2 表示方法を「小さいアイコン▼」に設定後、[インターネットオプション] を選択します。



3 「コンテンツ」タブを選択し、**証明書** をクリックします。





4 「信頼されたルート証明機関」タブを選択します。

5 発行先が以下である証明書を選択します。

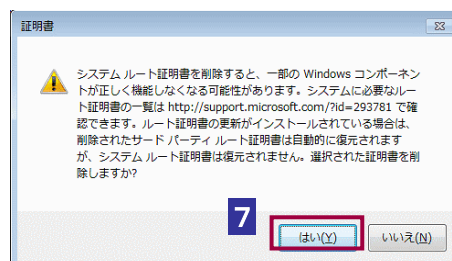
- ・ OfficialStatusCA（政府共用認証局（官職認証局（SHA-2））のルート証明書）
- ・ Security Communication RootCA2 または Security Communication RootCA3（セコムパスポート for WebSR3.0 のルート証明書）

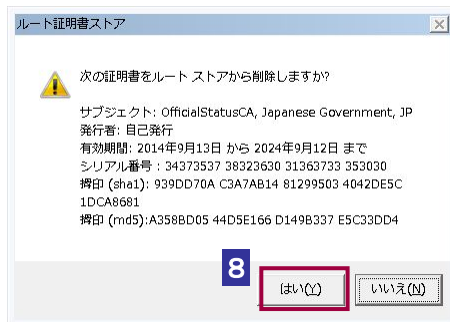
これらの発行先の証明書について 6 ～ 8 を行います。

6 削除 をクリックします。

確認メッセージが表示されます。

7 はい をクリックします



8 **はい** をクリックします。

(この画面は「OfficialStatusCA」の画面です。)

選択した証明書が「信頼されたルート証明機関」から削除されます。
これで、ルート証明書のアンインストールは完了です。

9 「中間証明機関」タブを選択します。**10** 発行先が以下である証明書を選択します。

- ・ SECOM Passport for Web SR 3.0 CA (セコムパスポート for WebSR3.0 の中間証明書)

この発行先の証明書について **6** ～ **8** を行います。

! **注意** 削除ボタンがグレー表示となり、ボタンを押せない場合があります。その場合、Windows の [スタート] メニューから Windows 10、Windows 11 の場合は [スタート] メニュー画面を選択し、「certmgr.msc」と入力し、**Enter** キーを押してください。
証明書のウィンドウが表示されますので、削除したい証明書を選択し、右クリックから削除を選択します。

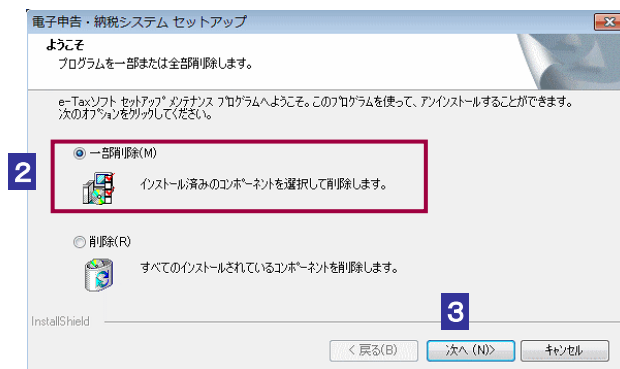
税目を指定してアンインストールする

インストールした税目が不要になった場合に、税目とその税目内の帳票ファイルを削除します。

- 1 <Windows 10、Windows 11の場合>Windowsの[スタート]メニューから[すべてのアプリ]－[e-Tax ソフト]－[e-Tax ソフトアンインストール]を選択します。

インストーラが起動します。

- 2 「一部削除」をチェックします。

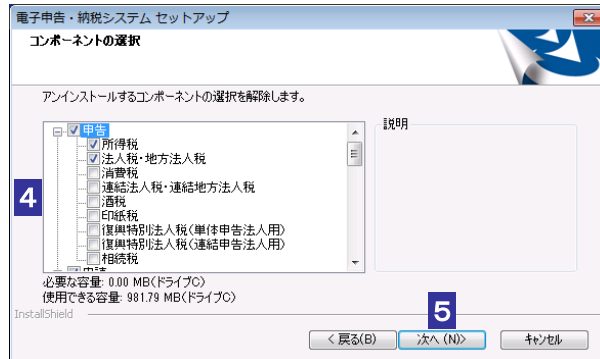


- 3 **次へ >** をクリックします。

4 税目をチェックします。

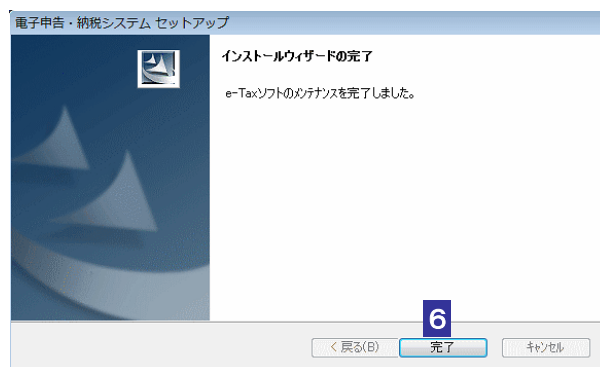
インストール済みの税目が、チェックされています。

アンインストールする税目のチェックを外します。



5 次へ > をクリックします。

選択した税目のアンインストールが行われ、以下の画面が表示されます。



6 完了 をクリックします。

これで、税目のアンインストールは完了です。